
南天、南天

沖川 英子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

南天、南天

【Nコード】

N7814R

【作者名】

沖川 英子

【あらすじ】

悪い夢は、南天の木に話しなさい。

おばあちゃんはそう言ったけど、わたしには気になることがある。だから、南天にきいてみた。

心配だらけの女の子と、南天のお話。

(前書き)

この作品は、【マイクロスコピック】(sleepdog様)主催、
「希望のポケット童話」企画の寄稿作品です。

朝起きたら、頭が痛くて、胸がもやもやして、朝ごはんどころじやなかった。すごく怖い夢を見たのだ。

そんなわたしを見ておばあちゃんは、悪い夢は南天の木に話してしまいなさい、と言った。

わたしはおばあちゃんの言うとおりに庭の隅に行って南天に話しかけようとしたのだけれど、急に心配になった。

嫌な夢の話を聞いて、南天は枯れてしまわないかしら？

そこでわたしは南天にきいてみた。

「南天、南天。悪い夢ばかり聞いて、あなたは平気？」

南天はしゃらしゃらと優しく揺れた。

「ええ、大丈夫。悪い夢はみんな実にしてしまいます」

赤いきれいな実がいつぱい、ころころとかわいく枝になっていたけれど、それでも心配でわたしはきいてみた。

「南天、南天。その実はどうするの？」

南天はふるふると笑って実を揺すった。

「仲良しの小鳥たちがみんな食べてくれますよ」

それを聞いてとっても心配になって、わたしはきいてみた。

「南天、南天。悪い夢の実を食べて、小鳥たちはお腹をこわさないかしら？」

南天はさらさらと静かにささやいた。

「大丈夫、小鳥のお腹はとっても丈夫。残るのは小さな種だけです」

それでもまだまだ心配で、わたしはまたきいてみた。

「南天、南天。種はちゃんと芽を出せるかしら？」

南天はゆらゆらとうなずいた。

「大丈夫、かわいい芽が出て、すすく伸びて、立派な大人の木になりますよ」

ちよっとほっとしたけれど、わたしはもう一度きいてみた。

「南天、南天。その木はどうなるの？」

南天はざざつと微笑んだ。

「どこかのお庭で、誰かの悪い夢を聞くのですよ。私がそうしているように」

「枯れてしまわない？」

「ええ、大丈夫」

そう言うと、南天は濃い緑の葉っぱで優しくわたしのほつぺたをなでた。

「だから、話してくださいな。何がそんなに怖かったの？」

そこでわたしは安心して、今朝の悪い夢をぜんぶ、南天に話した。そうしたら、胸の中がすうすうして、頭が痛いのも治ったみたいだった。

「ありがとう、南天」

幹に触ってお礼を言って、最後にわたしは言った。

「南天、南天。あなたが悪い夢を見たら、わたしが聞いてあげるね」

南天はわたしの頭を優しくなでた。

わたしはとつてもとつても元気になったので、南天にさよならを言って家の中に帰ることにした。

朝ごはんのいいにおい。お腹がぐうつと鳴いた。

(後書き)

悪いことも、怖いことも、みんな誰かに話してしまおう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7814r/>

南天、南天

2011年10月7日13時12分発行